

# 就学児の自己制御と遅延による報酬の価値割引

日常場面における自己制御行動と遅延割引率との関連

Self-control and delay discounting in elementary school children:

Relationship between self-control behavior in daily life and delay discounting.

○空間美智子・伊藤正人・佐伯大輔

大阪市立大学大学院文学研究科

Michiko SORAMA, Masato ITO, and Daisuke SAEKI

(Graduate school of Literature and Human Sciences, Osaka City University)

keywords: self-control, delay discounting, elementary school children

## 問題と目的

報酬を受け取るまでの時間の長さに伴い、その報酬の主観的価値が割り引かれる現象は遅延割引 (delay discounting) と呼ばれる (e.g., Green & Myerson, 1993)。遅延割引の過程は以下の双曲線関数によって記述され、遅延割引率 (k) は衝動性 (impulsiveness) の指標とされている (Mazur, 1987)。

$$V = \frac{A}{1+kD} \quad \dots (1)$$

ただし、Vは割引後の価値、Aは報酬量、Dは遅延時間、kは割引率を表す。

就学児における遅延割引の程度は、年齢が上がるにつれて低下することが明らかにされている (空間・伊藤・佐伯, 2010)。このことから、就学児における自己制御の発達的变化は、遅延割引の枠組みを用いることで定量的に検討できる可能性が示唆された。

本研究では、新たに開発した就学児用の日常場面における自己制御行動質問紙と、簡易版遅延割引質問紙を用いて、就学児の日常場面での自己制御行動と遅延割引との関係について検討することを目的とした。

## 方法

**参加児**：大阪府内の公立小学校に通う6歳から12歳の児童504名 (男児238名, 女児266名)。

**材料**：就学児の日常場面における自己制御行動を測定するために、新たに開発した自己制御行動質問紙を使用した。質問紙には、即時小報酬と遅延大報酬間の選択場面が4コマ漫画形式で呈示された。即時小報酬は「今すぐに、欲しいおもちゃを1つ買ってもらう」とし、遅延大報酬は「夏休み (約6ヶ月後) まで待って、欲しいおもちゃを2つ買ってもらう」とした。遅延割引の測定には、簡易版遅延割引質問紙 (空間ら, 2010) を使用した。

**手続き**：参加児が在籍する小学校の各教室において、クラス単位で一斉に行った。いずれのクラスでも、簡易版遅延割引質問紙を終了した後に、自己制御行動質問紙を実施した。調査者は、質問紙に描かれた4コマ漫画を1コマずつスクリーンに映しながら、選択肢の内容と回答方法について教示した。教示の後、参加児はいずれかの選択肢に丸を記入した。所要時間は約20

分であった。

## 結果と考察

自己制御行動質問紙において即時小報酬を選択した参加児と、遅延大報酬を選択した参加児の遅延割引率を比較した (図1参照)。この結果、自己制御行動質問紙において即時小報酬を選択した参加児の遅延割引率は、遅延大報酬を選択した参加児より有意に高かった ( $F(1, 478) = 6.821, p < .01$ )。このことから、簡易版遅延割引質問紙を用いて測定された遅延割引率は、就学児の日常場面における自己制御行動を反映する尺度として妥当であることが示唆された。今後は、親や教師による評価との関連についても検討する必要がある。

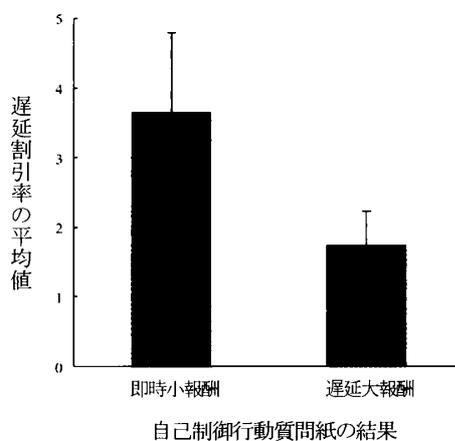


図1. 自己制御行動質問紙において即時小報酬または遅延大報酬を選択した参加児の遅延割引率の平均値

## 引用文献

- Green, L. & Myerson, J. (1993). Alternative frameworks for the analysis of self control. *Behavior and Philosophy*, 21, 37-47.
- 空間美智子・伊藤正人・佐伯大輔 (2010). 就学児における自己制御の発達的变化: 小学生用簡易版遅延割引質問紙の改訂. 日本行動分析学会第28回年次大会論文集, 120.

付記：本研究は文部科学省科学研究費補助金 (基盤研究(B), 課題番号: 20330147) の一部として行なわれた。